『国際教育研究所紀要』原稿テンプレート

岡山　花子1・倉敷　一郎2・千葉　二郎3

（1岡山理科大学教育学部・2倉敷芸術科学大学教育開発センター・3千葉科学大学危機管理学部）

このテンプレートは『国際教育研究所紀要』に「研究論文」「調査・報告」「翻訳」「その他」を投稿する際に使用していただくものです。本文に、レイアウトの説明や、執筆の際の注意点が記載されています。テンプレートに書かれている文章を置き換えながら作成していただくと、原稿の執筆は容易です。

また、この箇所には左右に20mmのインデントを入れて要旨（日本語論文は日本語要旨、英語論文は英語要旨）を挿入してください。日本語フォントはMS明朝、英語フォントはTimes New Roman(半角)を使用し、フォントサイズは10ポイント（ただし、英語論文の場合は10.5ポイント）を使用してください。日本語要旨の字数制限は400字程度、英語要旨の字数制限は200～300語程度です。

キーワード：国際教育、OECD、教育政策、データ分析

**1. 原稿の構成**

**1.1. 原稿の分量**

A4縦置き・横書き、48字×45行（2段組）で、原則15ページ 以内とします。ページ数には表題、要旨、本文、図表、注、引用文献等のすべてを含みます。原稿の執筆に用いることのできる言語は日本語、英語のいずれかとします。

**1.2. 冒頭（1ページ目）の論考情報**

本文より先に、横1段組で日本語論文の場合は日本語で、英語論文の場合は英語で、論考情報（種別、表題、著者、所属、要旨（日本語では400字程度、英語では200～300語程度））、キーワード（5語まで））を記載してください。

**1.3. 本文**

本文から横2段組になります。本文では、句点は「。」、読点は「、」を使用します。フォントは、日本語はMS明朝、英数字はTimes New Roman（半角）を使用します。文字サイズは、10ポイントを使用します。

**1.4. 巻末の英文による要旨**

　原稿の最後を改ページし、日本語論文の場合は英語で、英語論文の場合は日本語で、論考情報（種別、表題、著者、所属、要旨（英語では200～300語程度）を記載してください。

**2. 見出しの書式**

**2.1. 章、節の見出し**

見出しは、章、節の2段階までとします。章、節の見出しはMS ゴシック（英文の場合はArial）を用い、ボールド体にします。章の見出しには章番号を、節の見出しには章番号と節番号をアラビア数字（半角）で付けます。章見出し、節見出しの上は1行空けます。

**2.2. 章、節以外の小見出し**

(1) 段落に序列をつける

項より下で、関連性のある内容の段落に序列をつける場合には、半角括弧で閉じたアラビア数字（半角）で番号を付け、文章で簡潔に表現した小見出しを用います。小見出しはMSゴシック（英文の場合はArial）を用い、ボールド体にはしません。また、小見出しの上は行を空けません。

(2) 段落内で序列をつける

段落内で序列をつける場合には、①・・・、②・・・と〇に入った数字を付けます。さらにその中で序列をつける場合には、(a)・・・、(b)・・・のようにアルファベットに半角括弧を付けます。いずれの場合も、改行せずに文章を続けます。

**3. 文章表現**

和文は、常用漢字、現代仮名遣いを原則とします。数字は、熟語・成語に含まれるもの以外は、アラビア数字（半角）を用います。特殊な文字、用語ならびに記号の使用については編集委員会に相談ください。

略語は、一般的に用いられているものに限ります。まぎらわしい略語には、初出の際に原語と日本語の訳語を小括弧で示してください。

外国人名、外国地名に原語を用いるほかは、叙述中の外国語は活字体で表記し、訳語をつけてください。

**4. 本文中での引用**

**4.1. 文章の直接引用**

文献の記述の一部を直接引用するときには、引用符（「 」や“ ”）で囲み、原文のとおり正確に転記します。

**4.2. 引用した文献の示し方**

(1) 原文からの引用

本文中での文献の引用は、著者名（出版年）、あるいは（著者名, 出版年）として示します。複数の著者の共著を引用する際には、著者名を中黒（・）で結びます。また、同一箇所で複数の文献を引用するときには、同じ括弧内に著者名のアルファベット順にセミコロン（;）で区切り、また同一著者については出版年順に並べてそれらをカンマで区切って示します。たとえば、「…（飯吉, 2001; 小笠原, 2004）」、「絹川・館（2004）は…」など。著者が3名以上の場合は、初出の際に全著者名を書き、2度目以降は第1著者名に続けて「他」として略記します。

外国人名は「（Entwistle, McCune, & Walker, 2010）」のように原語で表記し、複数著者による共著の場合には著者名はアンド（&）で結びます。著者が3名以上の場合は、初出の際に全著者名を書き、2度目以降は第1著者名に続けて「et al.」として略記します。

同一著者で同一年に出版された文献が複数ある場合には、出版年の後ろにアルファベット小文字のa、b、c・・・を付けて区別します。

(2) 翻訳書からの引用

本文中で翻訳書を引用する際には、著者名と翻訳者名を併記します。たとえば、「（Wiggins & McTighe, 2005 西岡訳, 2012）」など。

(3) オンライン資料の引用

出版された冊子体がある場合には、冊子体となった文献から引用してください。オンライン上でしか閲覧できない資料を引用する必要がある場合には、他の文献と同様に資料の作成者名と公開年を併記して引用します。たとえば、「（中央教育審議会, 2012）」など。ただし、オンライン上の資料は削除されて閲覧不可となることが予想されるので、印刷するなどして編集委員会からの請求があった場合に速やかに対応できるようにしてください。

**5. 図および表**

図表は本文中に挿入し、最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。

図表を挿入して生じた余白には、文字を入れてもかまいません。なお、図表を縮小表示して挿入してもかまいません。

図および表には、通し番号を付し、表の表題は表の上部に、図の表題は図の下部に記します。なお、図および表が一つの場合にも、図1または表1と記します。

図表と文章本体との間には1行の空白を設けて区別を明確にします。

**6. 注**

注は必要最小限にとどめるものとしますが、注を付す場合、本文の該当箇所の右肩に上付きで通し番号を付け、本文の末尾にまとめて記載します。1

1注の見出しはMSゴシック・ボールド体を使い、左端に寄せてください。

**7. 引用文献**

本文中で引用した文献の書誌情報を日本語文献・外国語文献等で分けずに巻末に一括して示します。引用文献の見出しはMSゴシック・ボールド体を使い、中央揃えを行います。

文献は著者名（姓）のアルファベット順、同一著者の文献については出版年順とし、文献番号は付けません。文献の書誌情報が2行以上にわたる場合は、2行目以降を全角2文字（半角4文字）分字下げします。文献の書誌情報の書き方については本テンプレートの引用文献の箇所を参照してください。

**引用文献**

＜学術誌・紀要等の逐次刊行物の場合＞

田口真奈 (2007). 「高等教育におけるIT利用実践研究の動向と課題―ｅラーニングと遠隔教育を中心に―」『京都大学高等教育研究』13, 89-99.

（順番に、著者名、発行年（括弧にとじる）、論文表題(鉤括弧にとじる)、誌名（二重鉤括弧にとじる）、巻号数、掲載ページ）

Dall’Alba G., & Barnacle, R. (2007). An ontological turn for higher education. *Studies in Higher Education*, *32*(6), 679-691.

（順番に、著者名、発行年（括弧にとじる）、論文表題（鉤括弧にとじる）、誌名（斜字体にする）、巻数（斜字体にする）および号数（括弧にとじる）、掲載ページ）

＜書籍の場合＞

田中毎実 (2003).『臨床的人間形成論へ―ライフサイクルと相互形成―』勁草書房.

京都大学高等教育研究開発推進センター（編） (2003).『大学教育学』培風館.

（順番に、著者名（編者名）、発行年（括弧にとじる）、書名（二重鉤括弧にとじる）、出版社名）

Barkley, E. F. (2010). *Student engagement techniques: A handbook for college professors*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.

（順番に、著者名、発行年（括弧にとじる）、書名（斜字体にする）、出版社所在地：出版社）

＜書籍の特定の章の場合＞

松下佳代 (2010).「〈新しい能力〉概念と教育―その背景と系譜―」松下佳代（編著）『〈新しい能力〉は教育を変えるか―学力・リテラシー・コンピテンシー―』ミネルヴァ書房, 1-42.

（順番に、章の著者名、発行年（括弧にとじる）、章の表題（鉤括弧にとじる）、収録されている書籍の編者名、書名（二重鉤括弧にとじる）、出版社、掲載ページ）

Hermans, H. J. M. (1995). From assessment to change: The personal meaning of clinical problems in the context of the self-narrative. In R. A. Neimeyer, & M. J. Mahoney (Eds.), *Constructivism in psychotherapy* (pp.247-272). Washington, DC: American Psychological Association.

（順番に、章の著者名、発行年（括弧にとじる）、章の表題、収録されている書籍の編者名、書名（斜字体にする）、掲載ページ、出版社所在地：出版社）

＜翻訳書の場合＞

Hermans, H. J. M., & Kempen, H. J. G. (1993). *The dialogical self: Meaning as movement.* San Diego: Academic Press. ハーマンス, H.・ケンペン, H. (2006). 『対話的自己―デカルト／ジェームズ／ミードを超えて―』（溝上慎一・水間玲子・森岡正芳訳）新曜社.

（順番に、原著者名（原語表記）、発行年（括弧にとじる）、書名（斜字体にする）、出版社所在地：出版社、原著者名（カナ表記）、翻訳書発行年（括弧にとじる）、翻訳書名（二重鉤括弧にとじる）、翻訳者名（括弧にとじる）、翻訳書の発行所）

＜オンライン上でしか閲覧できない資料の場合＞

中央教育審議会 (2012). 『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて－生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ－（答申）』

(http://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm) (2016年3月30日)

（順番に、著者名、公開年（括弧にとじる）、資料名あるいはウェブサイト名（二重鉤括弧にとじる）、URL（括弧にとじる）、引用者の最新アクセス日（括弧にとじる）

Formatting Japanese Manuscript for Journals

Hnako Okayama 1, Ichiro Kurashiki 2, and Jiro Chiba3

(1 Okayama University of Science, 2Kurashiki University of Science and The Arts, 3Chiba Institute of Science)

This template is prepared for your preparation of manuscript (Articles, Notes, or Reports) for our journal. It provides instructions: page layout and others. If you replace the relevant text with your own by using “cut & paste,” you can make your manuscript easily.

The English Abstract should be justified, leaving a 20 mm margin on the left and right sides. Font should be a 10-point Times New Roman. The length should be about between 200 and 300 words.

Keywords: International education, OECD, Educational politics, Data analysis